

自己評価（前年度）

※「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価」のチェック項目を用いて自己評価しています

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価																				
データ 分析 表	データ表			データグラフ <table><thead><tr><th>項目</th><th>平均</th></tr></thead><tbody><tr><td>「乳児保育」</td><td>4.93</td></tr><tr><td>「3歳未満児保育」</td><td>4.92</td></tr><tr><td>「3歳以上児保育」</td><td>0.00</td></tr><tr><td>「教育保育の配慮事項」</td><td>4.87</td></tr><tr><td>「健康・安全」</td><td>4.62</td></tr><tr><td>「子育ての支援」</td><td>4.00</td></tr><tr><td>「職員の資質向上」</td><td>4.44</td></tr></tbody></table>	項目	平均	「乳児保育」	4.93	「3歳未満児保育」	4.92	「3歳以上児保育」	0.00	「教育保育の配慮事項」	4.87	「健康・安全」	4.62	「子育ての支援」	4.00	「職員の資質向上」	4.44
	項目	平均																		
	「乳児保育」	4.93																		
	「3歳未満児保育」	4.92																		
	「3歳以上児保育」	0.00																		
	「教育保育の配慮事項」	4.87																		
	「健康・安全」	4.62																		
	「子育ての支援」	4.00																		
	「職員の資質向上」	4.44																		
	内容	項目数	平均																	
「乳児保育」	15	4.93																		
「3歳未満児保育」	26	4.92																		
「3歳以上児保育」	0	#DIV/0!																		
「教育保育の配慮事項」	15	4.87																		
「健康・安全」	29	4.62																		
「子育ての支援」	18	4.00																		
「職員の資質向上」	9	4.44																		
計	112	4.65																		

| 総合 評価 | 今年度は、ウェブ（指導計画）を用いて複数名での保育の振り返りを継続して実施し、職員同士の対話の時間を多く持つことで、子どもの姿を丁寧に捉え、プロジェクトの深まりへと繋がった。 一時保育の受け入れ人数の増加やシニア元気ポイントの活動者の受け入れなど、少しずつ地域との繋がりが見えてきているので、引き続き積極的に受け入れを行いながら、新たな繋がりを模索していく。 | | |

事業計画（今年度の重点目標）

項 目	内 容
信条の周知・徹底	信条の強化月間を定め定期的に発信することで、周知の徹底を行う（年12回）
虐待を発生させない体制づくり	不適切事例に触れたり（年1回）、委員会と連携しながら人権擁護のセルフチェックリストを用いた振り返りを行ったりしていく（年2回）
取り組みの発信	年間の緊急時対応訓練の計画をコラムを通じて発信するとともに職員の研修参加等も掲示を通して保護者と共有していく（年1回）